



サンビオティック農業で美しい花園！



(周年栽培) ばら 栽培基準

本園(2年目以降)

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
1月 および 6月下旬	元肥(土づくり)	五穀堆肥	30袋	表層施肥 (灌水の範囲)	年に数回、土壌分析は必ず行い、不足ミネラルを補充します。EC、pHは毎月計測して把握し、ECは、0.5～1.0mSで管理し、pHは5.5～6.0の範囲でキープします。土壌は有機質、微生物に富み、排水性の良い膨軟な土質を好むため、冬季、夏季に五穀堆肥を施用します。もみ殻やかや、パークチップ、パーク堆肥などでも良いです。 土壌病害の発生が多い圃場である場合は、「かにキング～」20袋/10aを追加して施用します。
3～9月	生育及び 収穫期	有機百倍 鈴成 水酸化マグネシウム(または、硫酸マグネシウム)	(各月) 2袋(多収品種:3袋) 1袋(多収品種:2袋) 5～6kg(硫マگ10kg)	表層施肥 (灌水の範囲)	周年栽培の場合は、肥切れを起こさないように施肥量を調節する。特にカルシウム、マグネシウムの不足にも注意する。鈴成にカルシウムが含まれているため、通常はマグネシウムを追加して補給するとよい。なお、水酸化マグネシウムは、pHが6.0を超える圃場では溶けないため、硫酸マグネシウムを使用する。
		菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド	5リットル 5kg 3kg	約1トンの水に 希釈して灌水 7日おき	土壌の団粒化を維持し、根量を減らさないことが重要。下葉まで生き生きとした状態を保つため、菌力アップ、糖力アップ、コーソゴールドを週に1回灌水する。防除の際に、コーソゴールド500倍希釈を毎回併用すると、花芽が増え、色上りも美しい。
10～2月	生育及び 収穫期	有機百倍 鈴成 ケイ酸カリ(または、硫酸カリ)	(各月) 2袋(多収品種:3袋) 1袋(多収品種:2袋) 25～30kg (硫カリ10kg)	表層施肥 (灌水の範囲)	冬季は、葉からの蒸散量も減るため、より養分の転流を促すため、カリを追加して施用する。カリ資材では、ケイ酸カリは、ケイ酸を含んでいるため、うどんこ病などの病害軽減になり、またECを上げにくいいため、お勧めです。なお、pHが6.0以上の圃場では、硫酸カリを使用します。
		菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド	5リットル 5kg 3kg	約1トンの水に 希釈して灌水 7日おき	茎葉に十分な太さ、厚みがある場合は、菌力アップ、糖力アップを、純正木酢液(1000倍)や本気Ca(1000倍)に置き換えてやるのも良い。
病害時 (随時)	黒星病、うどんこ病など、病害発生時の対応	純正木酢液 本格にがり	500倍希釈 500倍希釈	3～4日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤等と併用して、純正木酢液、本格にがりを散布する。 根頭がん腫病は、こぶを切り取り、殺菌剤を塗ります。 菌力アップ50倍希釈液を、株元に灌水し、蔓延を防ぎます。
開花の 遅れ	開花促進	コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈 (水量150リットル)	3～4日おきに 葉面散布(5回)	日照不足、低温、その他の要因で開花が遅い、花芽が充実しないときは、実施します。光合成産物が増え、開花を促進します。

※糖力アップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※冬季休眠型栽培の場合は、上記の各月の分を2倍量にして、年5回程度に分けて施用してください。(1月下、6月上、7月上、8月下、11月上)

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。(上記は土耕栽培を前提としています。)

(土づくりのポイント)

- ◎ 灌水量の少ない圃場では、小さく薄い葉、茎細、小花、枯れ枝、下葉の枯れこみ、水揚げ不良、うどんこ病やハダニの発生、ベントネック(首垂れ)など、悪循環となっていて、明らかな土づくりの失敗が見られる。多灌水できる圃場を目指さなければならない。
- ◎ バラの根圏は深度60cm程度と言われており、下層部までしっかりと排水性、通気性が保たれていることが非常に重要である。特に、落葉の多い圃場では、有機物が堆積し、灌水しても水が下層部に染み込まず、樹勢の低下、根の老化を招いていることが大変多くみられる。
- ◎ 必要以上に、有機物が堆積した圃場では、有機物(落ち葉、剪定枝)を除去し、五穀堆肥を2cm程度敷き詰めて、十分に水が染み込む環境を整える。灌水の30分後に30cm程度掘って、十分に水が沁みているか定期的に確認する必要がある。同時にEC、pHを計測する。
- ◎ 継続的に菌力アップを灌水することで、土壌団粒化が促進され、乾燥し疲弊した根に、活力を取り戻すことができる。
- ◎ 病害や害虫多発の圃場では、チッソの効きすぎが問題となっていることが多い。そのような場合は、固形肥料を減らし、アミノ酸系の液体肥料での管理を行う。また、過剰チッソを吸収するため、土壌のCECを上げることが重要で、C/Nの高い堆肥(25～40)を施用する。
- ◎ 土壌分析を年に2回以上は行い、不足ミネラルを必ず補充していくことが重要。ECを上げにくい資材を選択する。また、リン酸過剰の圃場が多いが、その場合は、1年間鈴成の施用を控え(または半分にし)、苦土(マグネシウム)、二価鉄などのミネラルをしっかり施用していく。
- ◎ 栽培初年度には、暗渠排水などの排水の整備は必ず行うこと。上記の通り、下層部までの十分な水分と通気性が最重要ポイントである。初年度には、チッソ過剰の害を軽減するため、CECは20meq以上を目標とし、良質な完熟堆肥(C/N25以上)を3～5トン、およびゼオライトやベントナイト、パーミキュライトなどの良質なCEC改善資材を施用する。ゼオライトは、年に1回継続的に施用するとおおよい。
- ◎ 多灌水圃場では、pHが下がりやすいため、かき殻石灰(できれば苦土入り)を必要に応じて施用する。